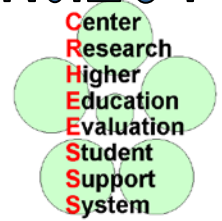


週刊センターニュース No.251



第251号(2009年3月16日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 2009年 春の集中共同学習会 ○●○

統一テーマ 「大学の教育力を高める教育技術とは—クリッカーとその周辺—」

日時: 2009年3月30日(月)・31日(火)、両日とも10時30分—17時30分

場所: 金沢大学角間キャンパス 総合教育1号館 6階 E1講義室

主催: 金沢大学 大学教育開発・支援センター

企画: 教育支援システム研究部門 青野 透

第一日 3月30日 月曜日

●第219回共同学習会 10時30分—12時

テーマ: 「クリッカーから始まる授業改善の新段階—橋本勝他『学生と変える大学教育』(ナカニシヤ出版、2009年)第13章と第15章を読む—」

報告者: 青野 透 (大学教育開発・支援センター)

●第220回共同学習会 13時30分—15時

テーマ: 「学習動機付けと ICT 活用教育の課題—金沢大学の学生の現状を踏まえて—」

報告者: 鎌田 康裕 (FD・ICT 教育推進室)

●第221回共同学習会 16時—17時30分

テーマ: 「クリッカーはなぜ欧米の大学で爆発的に普及したのか」

報告者: 山川 達也 (キーパッド・ジャパン社) 指定発言者: 山田 政寛 (東京大学)

第二日 3月31日 火曜日

●第222回共同学習会 10時30分—12時

テーマ: 「ピア・インストラクションと物理教育—クリッカーの授業活用を中心に—」

報告者: 新田 英雄 (東京学芸大学) 指定発言者: 山川 達也

●第223回共同学習会 13時30分—15時

テーマ: 「高等教育における教育内容と教育方法・技術との関係—携帯電話対応コメントカードシステムやクリッカーで思考を促し、理解度を確認—」

報告者: 宮田 仁 (滋賀大学)

●第224回共同学習会 16時—17時30分

テーマ: 「大学における学習システムとその背景」

報告者: 山田 政寛 (東京大学)

※参加ご希望の方は事前に、メール(info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp)にてご連絡をお願い致します。
また、二日間にわたりますが、ご関心のある回だけの参加でも結構です。

○●○ 教育改革国際シンポジウム「高校と大学の教育接続—高校生の学びをいかにつなぐか」

参加報告 ○●○

3月14日(土)、国立教育政策研究所主催の教育改革国際シンポジウム「高校と大学の教育接続—高校生の学びをいかにつなぐか」(於 文部科学省講堂)に参加した。荒井克弘氏(東北大学大学院)による基調講演では、高大教育接続の問題は、大衆化中等教育と大衆化高等教育の間が「多様な」形で接続されていることに発し、①学生獲得手段としての入学基準が緩和し学力低下を起し(アメリカのSAT(大学進学適性試験)の平均点の経年変化や共通1次・センター試験の同種のデータと併せ、必履修科目の未履修状況も示しながら)、学力の細分化および底面積の縮小(奥行きのみ)している

こと、また大学の収容力が拡大しただけで、教育コース・カリキュラムの多様化は進んでいないところに問題が生じていると指摘する。またこうした教育（システム）の変化と、産業・職業構造の変化、（一様な）知識基盤社会への志向は、中等教育における子どもの発達と教育評価のあり方と大学教育における専門知識・能力の捉え方の見直しを促していると述べていた。

続く海外の事例報告では、いずれの国も程度の差こそあれ上記と同様の状況を有し、それぞれの教育制度・政策の特色を活かし、踏み込んだ形で教育内容・実践に取り組んでいることが報告された。

ジョン・オウエン氏（メルボルン大教育学部）のオーストラリア・ビクトリア州、パトリック・パーク氏（オレゴン州教育省）のアメリカ・オレゴン州、シルビア・バーナード氏（ケンブリアン大）のカナダ・オンタリオ州、そして鄭廣姫氏（韓国教育開発院）の韓国とそれぞれの事例のうち、韓国を除く3国間で、いくつか共通する取組みが見出せる。つまり、①高校から中等後教育への進学に関わり、国語・数学等の基礎教科・学習内容にもとづく「基礎終了資格証」と、実地の場面に合った内容で構成されキャリア形成に至る発展学習を進める「応用修了資格証」（名称は様々）の2種類が整備され、選考のプロセスにおいて重要な機能を果たしていること。②財政補助を得て学区（ないし教育委員会）・高校・カレッジ（2年制高等教育機関）が連携し、地域に応じた高校・中等後教育の結合した教育課程を構築して、実習教育と中等後教育を受ける機会を提供し、両方の修了認定を取得できる「二重単位制」を設定していること。これにより潜在的な退学（可能性のある）生徒を高校に留めて、各進路へのスムーズな移行を支援できる。③高校生の大学科目履修と入学後単位認定を認める「アドバンスド・プレイズメント」（これについては、韓国でも近年同様なプログラムが開始されている）、などである。こうした共通のもの以外では、オレゴン州の、所定の知識や技能を身につけていることを示すことを入学要件にする新発想の入学基準体系（Proficiency based Admission Standards System: 「熟達度に基づく入学基準体系」）は興味深いものであった。

ディスカッションにおいて、指定討論者の田中義郎氏（桜美林大学教授）は、報告の全体が高等教育の拡大そのものについては肯定的にみていることを前提に、①日本及び韓国がまさに「入試に向かった接続」である現状からなかなか逃れない一方で、アメリカ・カナダでは「学習の接続」に焦点を置いて改革を進めていること、②学力を広い意味で捉えるのか、それとも狭い意味に留めておくのかという点、これに関連して③標準テストで評価するだけでなく、特定の能力・行動を評価することをねらうテスト開発など新しい能力の測定をどのように行っていくべきか、といった重要な論点を提出された。

AO や推薦など入試制度の多様化のみが進行し、高校大学の教育接続が混迷したままの日本の状況をみると、二重単位制の施行などに表れているように、地位的に高校生であり大学生でもあるといった形で「縦の多様化」が進めて、教育段階の移行・進路決定・職業選択を支えようとするアメリカ・カナダの取組みは非常に参考になるものである。が、果たして、日本は今後こうした類の縦の多様化を受け入れる準備ないし環境があるのか、といった疑問が出てくる。

（文責 評価システム研究部門 渡辺達雄）

●●● FD・ICT 教育推進室発 パソコン上達支援サイトのご紹介 ●●●

FD・ICT 教育推進室では、必携 PC の有効活用と、教職員の事務処理作業合理化を支援するため学生だけでなく、パソコンのスキルを上げたいとお考えの先生や事務職員の方にもお使い頂ける「Web で見るパソコン解説 お役立ちパソコン講座」を制作しています。

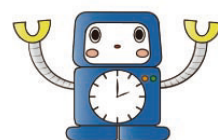
☆お役立ちパソコン講座☆ FD・ICT 教育推進室 Presents

もっとパソコンが使えるら…とお考えのあなた!! 是非この Web サイトを見てください。

<http://el.kanazawa-u.ac.jp/> . . .

この Web サイトは、学生が中心となってパソコン初心者やスキルを上げたい方の疑問・質問にお答えしようという思いで作成しています。

また、皆様のご意見を反映し、項目を増やしたいと考えていますので、どうぞご利用ください。



この Web サイトは、金沢大学 FD・ICT 教育推進室 2008 年度 e-learning 作品コンテストで最優秀賞を受賞しました。